vinetur

ガス価格が倍増、Great Northern Distilleryがウイスキー生産を停止

アイルランドの生産者が12月まで操業を停止し、人員を削減。停止は2月まで続く可能性がある

2026年11月15日（日）



Great Northern Distilleryは11月15日（日）、ガス価格が倍増したことを受け、ウイスキーの生産を停止し、人員を削減したと発表した。アイルランドの大規模な蒸留事業がエネルギーコストの急騰にどれほど大きな影響を受けているかを示す動きだ。

ダンドークに拠点を置く同蒸留所によると、生産停止は11月と12月を通じて続く見込みだ。Irish Independentによれば、会長のJohn Teeling氏は、エネルギー価格が落ち着かなければ停止期間が2月まで延びる可能性があると述べた。

今回の決定は、蒸留業者が依然として高い投入コストに直面するなか、アイルランドのウイスキー生産を担う大手の一社に影響を及ぼす。蒸留はエネルギー集約型の工程で、とりわけ穀物の加工や原酒の製造段階で多くのエネルギーを要する。ガス価格が急上昇すれば、蒸留器を稼働させる経済性はすぐに変わり得る。今回は値上がりが深刻で、Great Northernはコスト増を受け入れて操業を

続けるのではなく、生産停止に踏み切った。

Teeling氏は、操業再開後の蒸留所の生産量については自信を示した。同氏は同紙に対し、今回の停止が終わった後、Great Northernは2027年に400万～600万リットルを蒸留する見込みだと語った。

同社は削減した雇用人数を公表していないが、生産停止と同時に人員を減らしたことは、エネルギーコストが事業に与えている圧力を示している。この動きは、飲料業界全体にとってのリスクも浮き彫りにする。とりわけ、供給を外部の蒸留業者に頼るウイスキーブランドは影響を受けやすい。エネルギー価格の高止まりによって委託先の生産者が減産や操業停止を余儀なくされれば、ブランドによっては供給の逼迫やコスト上昇、在庫積み増しの遅れに直面する可能性がある。

こうした圧力は、アイルランドのウイスキー業界だけにとどまらない。欧州各地のビール醸造所、ワイナリー、蒸留酒メーカーは近年、燃料、ガラス、包装資材、輸送のコスト上昇に直面してきたが、蒸留業は製造工程で熱に大きく依存するため、エネルギー価格の変動に特にさらされやすい。消費者需要が維持されていても、ガス価格の高止まりが長引けば、生産量の決定や採用、事業拡大の計画に重くのしかねない。

Great Northernの操業停止は、コストの変動が今や生産スケジュールを直接左右していることを示唆する。自社の蒸留設備を持たない小規模なウイスキーブランドにとって、大手独立系生産者の操業中断は、ダンドークの一拠点をはるかに超える影響を及ぼす可能性がある。熟成在庫を何年も前から計画しなければならないカテゴリーでは、とりわけ影響が大きい。